

国連気候サミット強靱性セッション

(安倍総理冒頭発言)

(9月23日(火) 於：国連本部経済社会理事会議場)

気候変動が世界中で人間社会や自然生態系に影響するとともに、自然災害を引き起こしていることは、もはや疑う余地がありません。

気候変動に適応できる強靱な世界を築くためには、災害リスク対策を始めとした適応策が不可欠です。

災害は、ひとたび起これば、これまで積み上げてきた開発の成果を一瞬にして洗い流してしまいます。

そして、自然災害で真っ先に犠牲となるのは、子どもや高齢者、障害者等、弱い立場に置かれやすい人たちです。

脆弱な立場にある人たちを災害から守るために、人間の安全保障の観点から、防災に取り組む必要があります。

日本は、数多くの災害を乗り越えてきた経験から得た知見と技術で、防災先進国として国際社会を主導してきました。

具体的には、災害に強いインフラ整備や災害予防のための洪水対策・植林等のハード面と、法制度整備や防災教育、人材育成等のソフト面を組み合わせた支援を行ってきました。

国際場裏では、過去2回国連防災世界会議をホストし、前回2005年の会議では、国際的な防災指針である「兵庫行動枠組」の策定に貢献しました。

さらに、適応分野での支援体制を拡充するため、本日午前中のセッションで、私から日本の「適応イニシアティブ」を発表しました。適応政策の立案から実施まで支援を強化します。

特に気候変動の影響を受けやすい小島嶼国に対し重点的に支援します。国際ネットワークを通じた経験・知見の共有も進めていきます。今後3年間で、適応分野で5000人の人材育成を支援することをお約束します。

御列席の皆様、

来年3月、東日本大震災の被災地である仙台市で、第3回国連防災世界会議が開催されます。

この会議は、2016年以降の新しい国際的な防災指針、「ポスト兵庫行動枠組」を策定する重要な会議です。

同時に、私はこの会議を、日本の進んだ防災技術やシステムを、途上国にも採用されるような形で国際社会と共有する機会にしたいと考えています。

さらに、東日本大震災からの復興を皆様の目で見えていただくことを通じて、経験を共有する機会にしたいと考えています。

今日ここにお集まりの皆様を始め、各国の首脳・閣僚の方々に参加いただきたく思います。会議の成功に向け、御協力をお願いします。

実効的なポスト兵庫行動枠組の策定に加えて、ポスト2015年開発アジェンダに防災を明確に位置づけることも重要です。

指針の策定に加えて、実際に資源を防災に動員することで初めて、防災の主流化を進めることができます。

2015年は、ポスト兵庫行動枠組、ポスト2015年開発アジェンダ、そして気候変動の新しい国際枠組を策定する年です。

70周年を迎える国連が、こういったグローバルな課題に対する規範形成を担えるかが試される年です。

私は国連にそれができると信じています。そのために皆様の力を結集することを呼びかけて、私の冒頭発言を締めくくりたいと思います。

(了)